

[年度] 26年度和歌山県農林水産試験研究成果情報

[成果情報名]

和歌山県沿岸に生育する褐藻ヒロメ (*Undaria undarioides*) の形態的特徴

[要約]

和歌山県沿岸4産地のヒロメを用いて種糸を作成し、養殖用の苗を作成した。これらを、串本町地先で同時に養殖を行い、形態の比較を行った。その結果、田辺湾産ヒロメの葉部は幅広で、熊野灘産は縦長であった。

[キーワード] ヒロメ、形態

[担当機関名] 水産試験場 企画情報部

[連絡先] 0735-62-0940

[専門分野] 藻類

[分類] 普及

[背景・ねらい]

褐藻ヒロメ (*Undaria undarioides*) は房総半島から九州の太平洋側に分布し、和歌山県の紀南地方では古くから食用として利用されている重要な水産物である。ヒロメの形態について、田辺湾沿岸の漁業者らは経験的に葉幅が広いと認識しているが、紀南地方では、地域間における藻体の形態的特徴について調査した事例がない。本研究では、和歌山県沿岸各地に生育するヒロメ藻体の形態的特徴について明らかにした。

[成果の内容・特徴]

1. 和歌山県沿岸の4ヶ所 (図1) (田辺市江川、田辺市新庄、串本町串本、太地町太地) のヒロメを元に作成した種糸を使って、串本町地先で養殖を行った (図2、3)。
2. 葉長は、養成開始時には1.2~1.7cmだったが、10週間後には江川43.7 (±8.7)、新庄41.8 (±8.4)、串本60.8 (±13.3)、太地55.8 (±10.1) cmとなった。(図4)
3. 葉長/葉幅の比では江川-太地、新庄-太地 ( $p<0.01$ ) および新庄-串本、串本-太地 ( $p<0.05$ ) 間で有意な差 (Tukey's test) が認められた (図5)。

[成果の活用面・留意点]

養殖用種苗として、これらの形態的特徴を活用することで高い収穫・収益が見込まれる。

[具体的データ]



図1 和歌山県沿岸におけるヒロメ採集場所  
★：サンプル採集場所

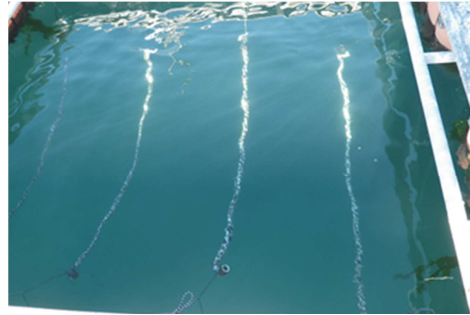


図2 ヒロメ養殖試験設定状況(左から太地、新庄、串本、江川 1/29撮影)



図3 ヒロメ養殖試験最終日(4/10撮影)

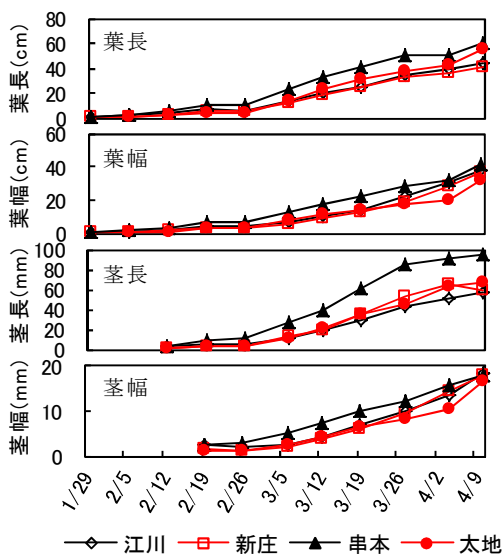


図4 養殖ヒロメ藻体各部の生長

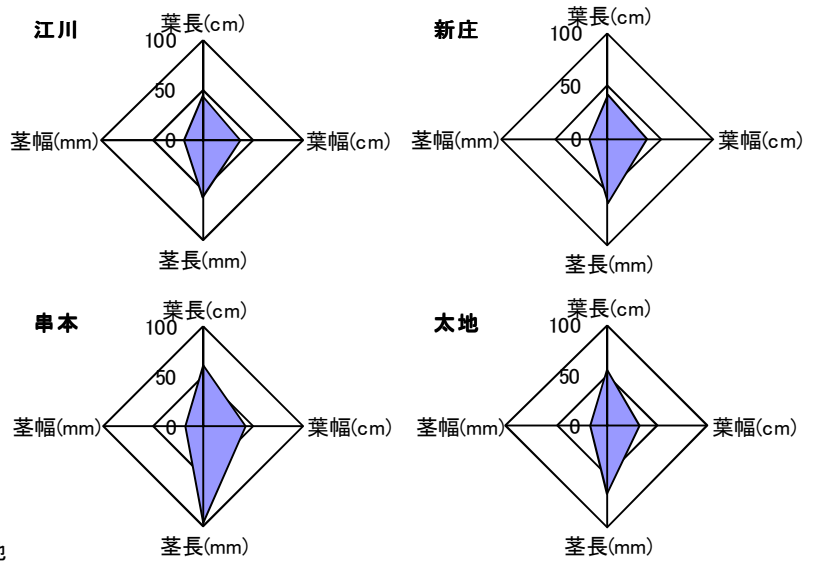


図5 串本で養殖した各産地ヒロメの藻体各部の形態

[その他]

研究課題名：磯根漁場の生産力強化技術の開発

予算区分：競争力アップ事業

研究期間：平成25～27年

研究担当者：山内信、白石智孝

発表論文等：なし

ホームページ掲載の可否：可